

# NUA PRESS

2008年10月1日発行(年1回発行)第15号 発行・編集/名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部同窓会事務局  
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65 Printed in Japan

## 2008 no.15

「場所や人の心に、何か形として残ってくれるような活動ができれば」

## 越賀 登紀子さん

美術文化学科 35期卒



2004年度に最初の卒業生を送り出した美術文化コース。美術館の学芸員や美術研究者、アートや教育の現場へとすでに多くの同窓生が活躍しています。そんなお一人でもある越賀さんは、昨年卒業されたばかり。職場におじゃましてお話をうかがいました。NUAPRESSで美術文化の同窓生は、今回が初登場です。

—現在のお仕事内容を教えてください。

卒業後すぐ、かすがい市民文化財団の美術グループという部署に入って3ヶ月が過ぎました。春日井市にある文化フォーラム春日井という施設の中のギャラリー業務を担当しています。自主企画や市からの委託による展覧会、ワークショップなどを行なっています。

—学生のとき学んだことや経験が仕事で生かされていることはありますか？

まだ働き始めて3ヶ月の新人ですが、アートマネジメントの授業で学んだ展示方法や段取りなどを応用して、ギャラリーでの展示に活かしている

と思います。学生時代の経験が、現場で何かを主張しなくてはいけな場面でも、臆する事なく意見を言えるようになりましたし、先輩方やスタッフの皆さんと上手くコミュニケーションしていくことにも役立っていると思います。取り入れてくださった私の意見で、より良い展示や空間づくりにつながった時などは、学生時代から積み重ねた努力が報われた瞬間ですね。

—最近、仕事で楽しかったことなどは？

つい先日、青森で「地域創造」というテーマの研修がありました。東京にある財団が支援しているものですが、職場から私がいくことになり、美

術フォーラムに参加しました。ディスカッションや講義などを通して、大学にいたときに知ったことに加えて、さらに多くの情報と刺激をもらうことができました。特に、地元の人たちからなるボランティアと施設との関わりかたについての講義が一番印象に残り、春日井市民のための施設である文化フォーラムにも応用できればと考えています。

—今はどんな企画に携わっているのですか？

夏に市民展がありますので、いまはそのサポートをしています。10月には全国書道公募展を担当することになっています。

—自分で企画する展覧会などができる機会はあるのでしょうか？

今年度は仕事を覚える期間として、先輩を手伝ったり委託の展覧会を動かしていますが、来年度から少しずつでもできるようになればと思っています。企画会議では、すでに展覧会とワークショップの案を提出しています。実現までには、まだまだ時間と経験が必要でしょうね。

—これからの目標、夢をお願いします。

全体を通しての夢は、自分の活動が、場所や人、心に残るようになればと思います。今はこの場所で精いっぱい自分ができることを実現して、ここで活躍したいと思います。■

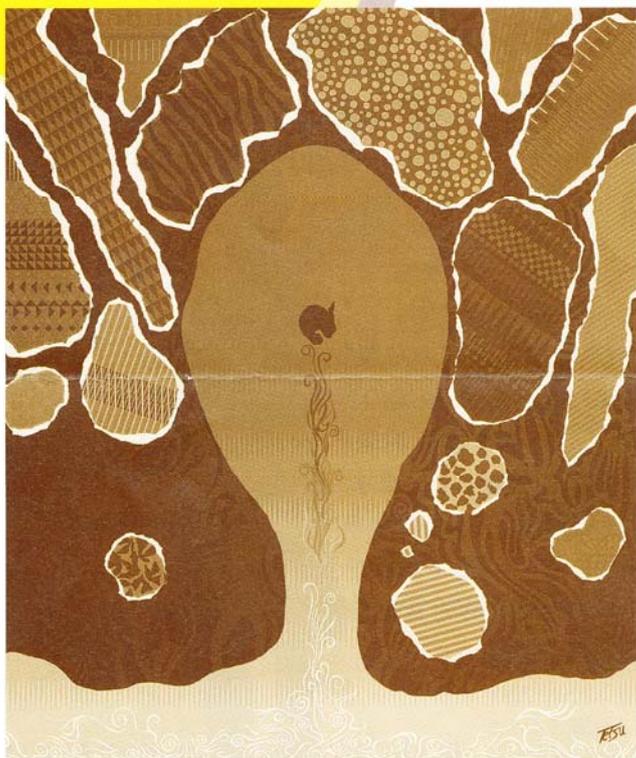


展示作業の終わった会場にて。(財)かすがい市民文化財団美術グループに所属。

デザイン科 19期卒

テツ 山下さん  
(本名:山下哲司)

「カンヌ国際展覧会 2年連続受賞」



写真上から  
受賞した作品2つ。テーマはアフリカ

中  
昨年度、銀賞の授賞式

下  
現地での展覧風景

——2008年カンヌ国際展覧会、大金賞受賞おめでとうございます。

ありがとうございます。でも実は本人が一番ビックリしてるんです。

——昨年の銀賞に引き続いて2年連続の受賞になりますが、どのようなところが評価されたと思いますか。

どこがという具体的なところは解りませんが作風として、ペーパーキルトという貼り絵表現が目新しく新鮮だったのかもかもしれません。去年と違い一つのテーマを違った切り口で表現した事も評価に繋がったのかもかもしれませんね。また今年は横浜でアフリカ開発会議が行われたり、何かとアフリカについて関心が高かったことも影響してるのではないかと思います。

——作品を作る上で考慮していることがありますしたら教えてください。

私は制作する際、先に文章から形作っていきます。これは1枚の絵を完成させるに当たって「自分が表現したいもの」を明確にさせるためです。「優しい感じ」、「羽のような」などほとんど単語の羅列ですが、最終的には詩という形になります。

今回の場合でいえば「生む・育む・包み込む・うごめく・受け継がれる」がキーワードになっています。制作中、今表現しようとしているそのものに、自身迷いが生じることが多々あります。そん

な時、最初書いておいた「自分が表したい物=原点」に帰るわけです。そうすると自ずとぶれた箇所を修正できるのです。ですからこのメモ書きを必ず行う事かなあ。色や形についてはあまり迷わないですから。

——現在はどのようなことに取り組まれていますか。

新たに個展の話が舞い込んでいるため、それに向けて全力投球しています。今回は今までの自分の殻を破るということで表現方法も含めアフリカ一辺倒ではない物を制作しています。これが終わったら、あらためて「描きたい絵」と「自分自身の方向性」を考えたいですね。

——今後の抱負をお聞かせください。

まだ具体的ではありませんが、ニューヨークで個展が開けるように自分をし向けていきたいですね。その為に必要なこととそうでないことを見極め、自分を高める努力をしていきたいと思えます。常に前を向き、人に感謝することを忘れず、今できることを着実にやる。ただそれをくり返し、描いた夢を現実にしていけたらいいですね。

**国際展に2年連続で受賞し、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いの山下さんですが、その真摯な姿勢で今後もさらに飛躍した活動をみせてくれることでしょう。名古屋芸術大学同窓会の一員として、これからも世界を股にかけてのご活躍を期待しています。■**



作品の前にて



個展会場風景

## 絵画科洋画コース 22期卒

### 見持 祐子さん

岐阜県可児市を中心に作家活動中の見持さんをご紹介します。

—現在の活動を教えてください。

年に個展とグループ展を数回行い、自宅で絵画教室とカルチャーセンターで教えています。

大学卒業後、太平洋美術展に何度か出品していましたが、自分の絵は他人の絵と比べるとは無く、一緒に話しながらとか、ゆっくりと座って落ち着いて見てもらったほうが相手に伝わる。より理解してもらえと思い、それからは個展をやっていたと思います。

地元ではない京都で個展(ぎやらしい西利)をするきっかけは、知人からの紹介でしたが、今年で5回目となりました。自分の作品を発表する良い場所になっています。

—京都での反応はいかがでしたか？

よく最初に油絵かどうかを尋ねられます。油絵ですが全体に色付きが薄い印象があります。でもゆっくり見ていると段々と絵の姿が見えてきて、近くで見ると遠くで見るとでは印象が変わって見えるそうです。

京都での個展3年目の時に京都新聞に個展の紹介してもらい、多くの人に足を運んでもらえました。続けて見に来てくれるリピーターの方もいて、自分の絵について前向きに思うところを言うことが大きな糧になっています。

—作品の制作において、学生の頃と現在では考え方や作風は変わりましたか？

基本的には変わっていないと思います。主に人物や物の周りの空間を描いています。ただ、個展を

始めてからは6号以下の小さい絵を描くことが多くなり、必然的に拘って描いてきた空間が狭くなるので戸惑いもありました。個展やグループ展への制作が増える中、新たに静物モチーフを作品づくりに取り入れて模索し、今では枠のサイズに捉われず、自分の思うように描けてきていると思います。

—自宅で絵画教室とカルチャーセンターでも教えていらっしゃるそうですね。何か影響を受けることはありますか？

生徒さんからは大きなパワーを買っています。今まで私自身が描き続けてこられたのも生徒さんと一緒に描いてきたからだと思います。生徒さんに色々とお助けしてもらったり支えてもらっています。そして何よりも生徒さんが何年も描き続けていることに刺激を受けています。

—これからの展望や夢はありますか？

これからもいろいろな方々と出会いたいし、自分の絵を見てもらいたいです。各地で個展を開催したいし、海外でも…という思いもあります。■

#### 名古屋芸術大学 西春キャンパス [美術学部・デザイン学部]



#### 編集後記

■皆さまのご協力を得て、会誌15号を発行することが出来ました。こまごまで会誌発行を続けることができたのも、ひとえに同窓生の皆様の惜しみないご協力とご支援につきると思っております。誠にありがとうございました。また本学、名古屋芸術大学、および名古屋自由学院グループからの情報・資料提供を頂き、大変感謝しております。今後とも本学同様、同窓会へのご支援ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。■第21回同窓会総会・懇親会を今年は本学、名古屋芸術大学西春キャンパスにて開催します。今年も多くの方の皆様の参加をお待ちしております。懇親会では、同窓生の交流や豪華景品の当たる楽しいゲームを企画しています。先生方も大勢いらつやいますので、この機会に仲間を誘い合つて是非ご参加下さい。今年も参加は無料です。

■前号14号でのお詫びがございました。会誌14号の表紙に掲載されました大谷一郎さんの記事に間違いがございました。文章後半部分、誤り経緯を重ねるほどにデザインの可能性の大きさを感じています。正し経験を重ねるほどにデザインの可能性の大きさを感じています。また写真キャプションが、「左」にある写真に対して、「右」と謝って記されています。ご本人をはじめ関係者の方々には大変ご迷惑をおかけ致しました。ここに訂正しお詫び申し上げます。



豊田市文化振興財団 豊田文化奨励賞受賞!!

彫刻科 22期卒

鈴木 琢磨さん

「好きなことをただやり続けてきた。」



作品の前で。

ホントいろいろです。30歳までずっとアルバイトです。今も対して変わらない立場ですけど。例えば子どもの施設で仕事を教えたりといったような、子どもと接する仕事が多かったですね。あとイベントの運営もしましたし、ある時は工場で期間工をしてまとめたお金をつくり、それから作品制作…なんて思い出もあります。今は少し落ち着いて、高校や大学で講師をしています。

張らないといけないなと思ってます。

——では最後にこれからどのような活動を目指していらっしゃるのでしょうか。

そうですね、今まで積み上げてきた物も大切に、新しい表現方法を模索していけたらいいなと。制作活動と現実的な部分とのバランスを維持して行く事は大変ですが、作品と共に自分自身も成長して行けるそんな毎日を送っていただけると嬉しいです。■

——その間の作品発表はどのように？

学生の時に始めた名古屋と豊田でのグループ展、それから国展をはじめとした公募団体展を中心にいろいろ発表していました。

——現在は年間何点ぐらいのペースで制作してらっしゃるんですか？

私の作品は、乾漆で漆を使った彫刻技法で出来ているため、漆が高価なことから、卒業直後は、家の修復もあって等身大の作品を一点、小品が一点作くらいが精一杯でした。今は、等身大を二点と、小品二、三点くらいかな。

——それで本年度の豊田文化奨励賞を受賞した訳ですが、奨励賞ということで個人に贈られる賞としては大変な評価ですね。率直なご感想をお聞かせください。

豊田でコツコツと定期的に展示会はしていました。ただ自分としては好きなことをやり続けてきたというだけで、選んでいただいたのは大変嬉しいのですが「僕が?!」という感じで信じられないです。でもそんな地道な活動や作品を評価していただいた訳ですし、今後も頑



作品タイトル「受信.送信。」

卒業後も作家活動を続け、現在本学の非常勤講師をされている鈴木さんが、平成20年度豊田市文化振興財団表彰で豊田文化奨励賞を受賞されました。そこで、これまでの活動と今後の展望について語ってもらいました。

——大学卒業直後は何をしていましたか？

卒業するまであまり先のことは考えてませんでした。(笑)  
とりあえず彫刻を作るために、まず広い制作場所が要るなということに気がついて(笑)、いろいろな物件を見てまわりました。アルバイトしながらだったので結局5ヶ月かかってしまって。そうして探し出したのは月3万円、山のふもとでの古い一軒家です。家の修理もしなくてはならず、本格的な作品制作が始まるまでにはさらに時間かかりましたけどね。

——制作活動を続けていくための次のハードルとしては、やはりお金も稼がなくてはいけない…制作時間の確保を考えると調整が大変だと思いますが、どんな仕事をしていたんですか？



## 同窓会が後援を行った展示会報告

2007年4月から2008年3月まで、同窓会が後援を行った展示会を下記に報告します。後援依頼は後援規約をよく確かめた上、ご応募下さい。

- 藤原史江個展(25期卒 藤原史江)  
2007年4月9日～14日:不二画廊(大阪)
- peace nine(2007)(21期卒 長谷川直美)  
2007年5月18日～23日:A&Dセンター・ギャラリーbe
- Fresh 2007 伊藤里佳展(32期卒 伊藤里佳)  
2007年7月21日～8月7日:伊勢現代美術館
- 野田将也展(28期卒 野田将也)  
2007年8月16日～28日:エビスアートラボギャラリー
- ナゴヤ・モンスーン展(32期卒 石神則子)  
2007年9月18日～23日:ヴォイス・ギャラリーpfs/w(京都)
- あさのゆき展(20期卒 浅野友紀)  
2007年10月31日～11月10日  
CITE INTERNATIONALE des ARTS
- 名芸大大学院洋画制作展(33期卒 高原絵里)  
2007年11月24日～28日:A&Dセンター
- 三水会第四回絵画、彫刻展(7期卒 河村佳則)  
2008年1月18日～29日:T.A.G.IZUTO
- 第11回若武者日本画展(28期卒 水野加奈子)  
2008年1月22日～27日:ノリタケギャラリー
- 逍遙[しょうよう](31期卒 永下山由香)  
2008年2月2日～10日:art & design rin(常滑)
- サカイダ ヨーコ個展(24期卒 坂井田陽子)  
2008年3月9日～30日:space bone(犬山)
- 98JP(29期卒 北原典子)  
2008年3月25日～30日:芸文センター12FアールスペースG

上記ほか。(計29企画)

## 作品展に於ける後援規約

名古屋芸術大学美術学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

### 1. 資格

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓生で会費を取めた者。

### 2. 後援金

個展・グループ展(参加者全員が同窓生であること)とも1回に二万円とし、各参加者につき年(期間:4月1日より翌年の3月末日まで)1回とする。但し、名義後援は認める。

### 3. 手続き

イ)会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。

ロ)作品展終了後1ヶ月以内に、DM及び会場(作品)写真数点を添え報告書を提出する。尚、DM及び写真は資料にするため返却出来ませんので御承ください。

### 4. 条件

イ)作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」を明記する。

### 5. 再振込の手数料ご本人負担について

イ)報告書の振込先に間違いがあった場合は、2万円から振込組戻し手数料(840円)と、再度振込時の手数料(三菱東京UFJ銀行宛315円・他行宛630円)を差し引いた金額を、後援金として入金させていただきます。

### 6. 問い合わせ・送付先

名古屋芸術大学美術・デザイン学部  
同窓会事務局  
愛知県北名古屋市徳重西沼65  
TEL0568-24-0325

# Information

## 同窓会総会懇親会のお知らせ

同窓会総会・懇親会は、今年で第21回目を迎えます。

今年の開催場所は、大学西キャンパスです。しばらく大学に足を運んでいらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。また会費も昨年同様無料(ご家族の方含む)これを機に、ぜひお越し下さい。お待ちしております。



**場 所** 名古屋芸術大学西キャンパス  
(美術・デザイン学部)  
愛知県北名古屋市徳重西沼65  
大学代表番号 TEL 0565-24-0350

**日 時** 平成20年11月16日(日)  
**総 会** 13:00～ B棟大講義室  
**懇親会** 14:00～ B棟学生食堂  
**会 費** 無料

☆送迎シャトルバス有り  
名鉄西春駅一名古屋芸術大学西春キャンパス間  
(バス停場所・時間などは同封の案内をご覧ください。)  
☆駐車場あり(台数限り有)

☆2007年度、ゴールテンブライス受賞者は、  
デザイン科 16期卒  
大谷一郎さん

絵画科日本画 12期卒  
荒木紀江さん

絵画科洋画 32期卒  
名知聡子さん

彫刻科 8期卒  
橋本恵史さん  
です。

大谷さん



荒木さん



名知さん



橋本さん

## 再度確認を!お願いします!

振込先の口座番号など、間違いが大幅多くなっています。

書類をお送り頂く前に、もう一度番号などご確認ください。よろしくお願いたします。

様式1	後援依頼	様式2	報告書
	○年○月○日 名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿 第○期○○○科卒業 ○○○○○○ 印		○年○月○日 名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿 第○期○○○科卒業 ○○○○○○ 印
	下記の作品展について後援をお願いします。	1) 名称	○○○○展
1) 名称	○○○○展	2) 場 所	○○○ギャラリー (住所・電話番号)
2) 場 所	○○○ギャラリー (住所・電話番号)	3) 会 期	○年○月○日～○年○月○日迄
3) 会 期	○年○月○日～○年○月○日迄	4) 代表者(出品者) 郵便番号・住所	※氏名(第○期○○○科)・電話番号 注)※印は出品者全員記入
4) 代表者(出品者) 氏名(第○期○○○科)	電話番号 郵便番号・住所	5) 入場者数	○○名
		6) 写真	写真○点添付致します。
		以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。 振込先/○○銀行・○○支店・○○座・No.○○ 口座名義(フリガナ)	